PERSEUS 操作チャート

操作項目の下側の(　)内の数字は取扱い説明書の関連ページです。
取扱説明書を必ずお読みの上、本チャートをご利用下さい。

www.aorja.com

ATT (24)
アッテネーター
入力信号を減衰させます。
10dB, 20dB, 30dB の中から選択します。

FRONT-END (24)
フロントエンド制御
Presel　プリセレクター　On/Off
Preamp　プリアンプ　On/Off
Dither　ADC ディザー　On/Off

AMPLITUDE (25)
振幅調整
スペクトラム表示における振幅と基準の設定を行います。

FREQUENCY (11)
受信周波数設定
周波数ペイン(窓)の数字の上にマウス・ポインタを置いてマウスのホイールを回すことで周波数が変更できます。
周波数ペイン(窓)をダブルクリックしますと周波数入力ウインドウが出ますので、目的の周波数を入力します。

Span / RBW (18)
スパン / 分解能
メイン・スペクトラム / ウォーター・フォールのウインドウで表示される帯域幅(スパン)と相対する分解能(Resolution Band Width)を選択します。

CF Step (12)
CF ステップ設定
メイン・スペクトラム/ウォーターフォール・ウインドウの周波数バーの下側の両端についた白色の三角矢印ボタン(◀ ▶)で、あらかじめ選択したステップで受信周波数を上下できます。

Wheel Step (17)
ホイール・ステップ調整
マウスのセンター・ホイールを回した時の周波数ステップを設定します。
マウスのポインターをスペクトラム画面、あるいは周波数バーの上に置き、ホイールを回し周波数を変化させます。

TUNING (17, 18)
同調 と キャリブレーション
Center ボタンは、チューニング・ダイヤルのポインタを常に周波数スケールの中央に固定します。
Cal / CalClr ボタンは周波数キャリブレーション時に使用します。

SAMPLING RATE (21)
サンプリング・レートの選択
サンプリング・レートの切り替えでバンド幅が選択されます。 この値はバンドをHDDへ記録する時の記録サイズを決定します。

INPUT SELECT (23)
入力選択
ペルセウス本体を使用するか記録されたファイルを使用するかを選択します。

PLAYBACK / REC (23)
再生/記録ボタン
これらのボタン操作はDVDプレーヤやビデオレコーダと同じです。

AM /SAM/CW/RTTY/LUSB/USB/FM/DRM/USER (25)
モードバー
受信モードを選択します。 DRM受信にはご使用になられる方ご自身で、フリーソフトをインストールする必要があります。

Spect / Wfall / Palette / NBW / NBN / Afc (19, 25 等)
メイン・スペクトラム / ウォーター・フォールの切り替え、ウォーター・フォール色の組み合わせ変更
ノイズブランカー選択などのボタンです。
◀ ▶ でCFステップにて設定の周波数で周波数を変化できます。

AMPLITUDE (25)
振幅調整
スペクトラム表示における表示基準の設定を行います。
上下の△▽マークボタンです。

ウォーター・フォール制御バー (19)
速度 / 輝度 / コントラスト調整用スライドバーです。

FFT解像度ボタン (19)
スペクトラム表示で、リフレッシュ・レートを下げる代わりにシャープネスの向上を選択できます。

AF (25)
ボリュームとミュート(AF Vol)
ノイズ・リダクション(AF NR)
の制御に使用します。

S-MTR (26)
受信信の強度をRMS(実行値)で表示するかPeak(尖頭値)で表示するかを切り替えます。

メモリー・ウインドウ データベース選択ボタン (27)
MEM(メモリー・ウインドウ)に表示される周波数データベースの選択ボタンです。

BW (13)
バンド幅選択ボタンです。
目的のモードにあわせて最適なバンド幅(通過帯域幅)を選択します。

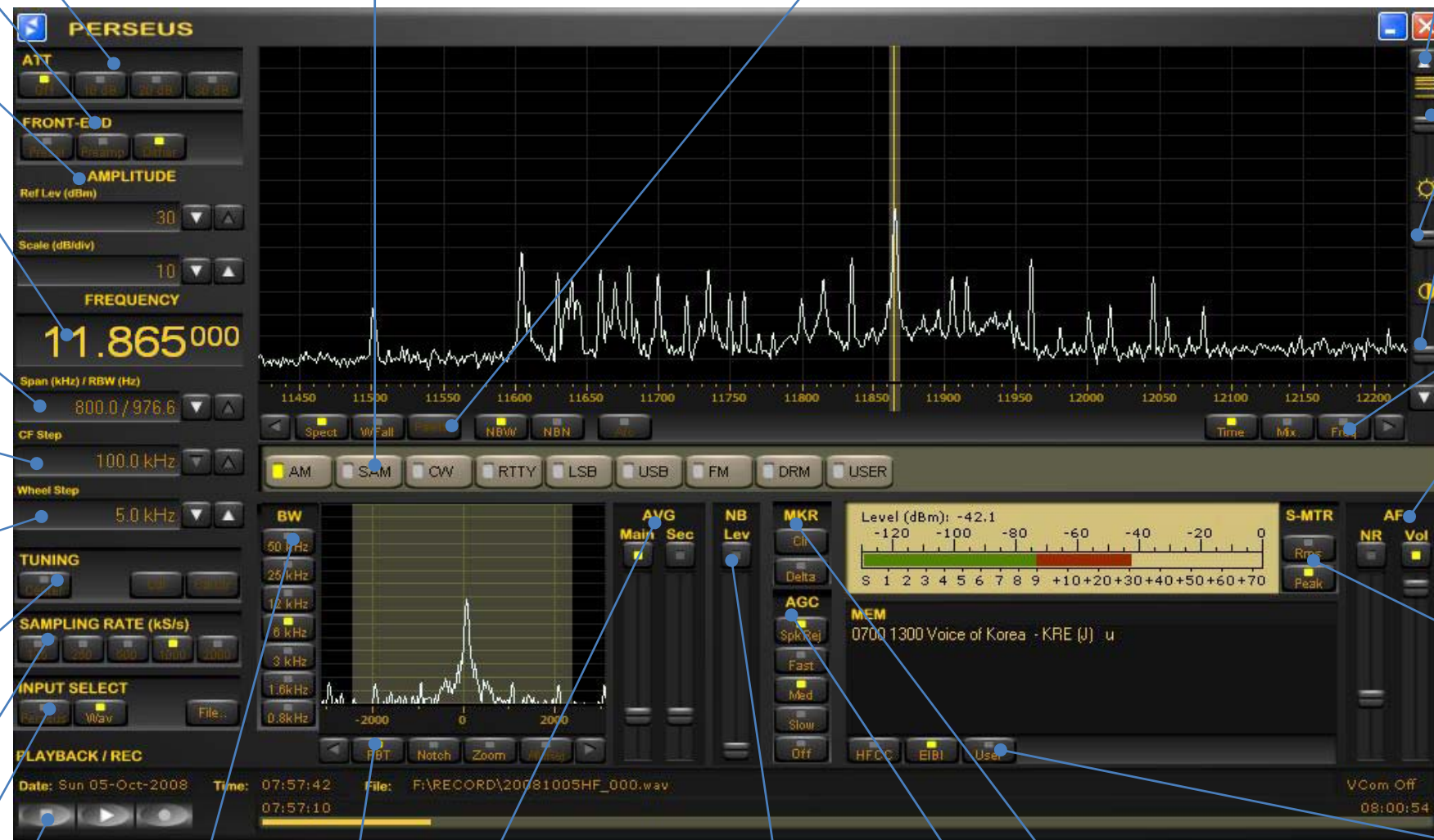
AVG (20)
スペクトラム/ウォーター・フォール・ウインドウのスペクトラム波形の平滑化を行います。
メインとセカンダリ・ウインドウのそれぞれで実行可能です。

MKR (19,20)
マーカー表示の消去、マーカー表示を差分値で表示するためのボタンです。

NB Level (25)
ノイズ・ブランカはパルス性ノイズを抑制します。
ノイズ・ブランカ(NB)の閾値を調整します。

PBT / Notch / Zoom / AMRej (13, 14, 15, 16)
パスバンド・チューニング(PBT), ノッチフィルター、セカンダリ・ウインドウのズーム、 AMスプラッタ・フィルターを選択するボタンです。
◀ ▶ にて Wheel Step で設定したステップで周波数の変化ができます。

AGC (26)
AGCの時定数切り換え用のボタンです。
AGCコントロールバー内の【Fast】【Med】【Slow】の3つのボタンで、時定数を選択できます。 【Off】ボタンで、AGCを停止できます。

【SpkRej】はAGCのスパイク除去ボタンです。
この機能は、比較的長い時定数の古いアナログ受信機のAGCの動作をエミュレートします。

PERSEUS 操作チャート

操作項目の下側の(　)内の数字は取扱い説明書の関連ページです。
取扱説明書を必ずお読みの上、本チャートをご利用下さい。

I/Q データ・ストリームによる記録

SAMPLING (21) SAMPLING RATE (サンプリングレート)を選択します。
サンプリング・レートと記録できるバンド幅, ファイルサイズとは以下の
記録時間は以下のとおりです。

サンプリングレート (kS/s)	記録／再生バンド幅 (kHz)	ファイル.サイズ	記録時間	100GB のハード・ディスクへ記録した場合
125	100	660MB	15分	約38 時間
250	200	1.3GB	15分	約19 時間
500	400	2.6GB	15分	約9時間30分
1000	800	3.5GB	10分	約7時間
2000	1600	2.3GB	5分	約11時間

記録時間は記録の単位で、自動生成されるファイルにより記録される時間です。
この記録単にごとにハードディスクの容量の範囲でファイルが自動生成されます。

PLAYBACK/REC (22) 記録を開始するには録音ボタン【 ● 】をクリックします。

PC上に"ファイル保存（名前をつけて保存）"ウインドウが出ますので、
記録ファイルの"ファイル名"と"保存場所"を指定します。

記録を終了するには停止ボタン【 ■ 】をクリックします。

左より 【 停止 】【 再生 】【 録音 】ボタン

ハード・ディスクからの再生

INPUT SELECT (23) 記録されたデータを再生するには入力選択(INPUT SELECT) から
【 **Wave** 】ボタンをクリックします。

PERSEUS 受信機がUSBに取り付けられていない場合の再生も可能です。
接続されていない場合は、 Wave のままです。

【 **Files** 】をクリックします。

PC上に"ファイルを開く"ウインドウが出ますので、再生したいファイルを選択して、
"開く" ボタンをクリックします。

再生ボタンをクリックし再生を開始します。

再生中の"早送り"と巻き戻し

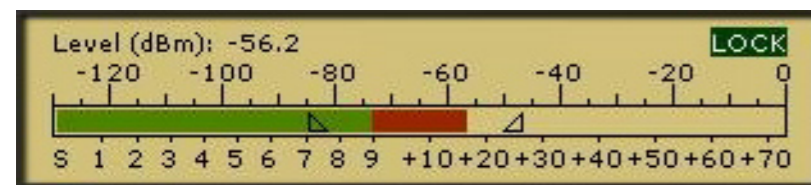
(23) 処理中のバーの任意の位置をクリックすることで、再生位置を選択できます。

狭い選択期間をループさせる(聞き返すため)には、 処理中バーの期間を
左ボタンを押したまま選択したい範囲をドラッグします。 ドラッグした部分
のバーの色が黄色から淡い黄色へ変化します。

この部分を左クリックすることで、ループがキャンセルされます。

スケルチ 及び ミュート操作

取扱説明書にはこの操作の説明は含まれていません。

S-メーター

スケルチと自動ミュートのレベルは、マウスの左のボタンでS-メーター・バーでの
望ましい値をクリックして設定できます。
自動ミュートの機能は、スケルチとは反対の方法で動作します。

RF 入カレベルが適切なしきい値より大きいときに、オーディオの音を
止めます。そして、送信機 あるいはトランシーバーが
（適切なアンテナを回路で切替えて）送信するとき、自動的に受信機の
音を止めるために使うことができます。

スケルチ・レベルは、S ― メーターのバーの S1 ―S9 の範囲でクリックして設定します。
S ― メーターのバーの中にある左辺が垂直の三角形が設定されたスケルチの
しきい値を示します。

自動ミュートは、S ― メーターのバーの S9 ― S9+70の範囲で、S - メーターの
バーをクリックして設定します。右辺が垂直の三角形が設定された自動ミュートのしきい値を示します。

スケルチと自動ミュート機能を止めるには、S - メーターの対
応する範囲を右クリックしてください。
スケルチと自動ミュート機能のヒステリシスは、およそ6デシベルです。
設定されたしきい値はピーク値です。